

【開催概要】

歌川広重展

- 東海道五拾三次と雪月花 叙情の世界 -

UTAGAWA HIROSHIGE

佐川美術館（所在地：滋賀県守山市）では、夏季企画展「歌川広重展-東海道五拾三次と雪月花 叙情の世界-」を開催いたします。浮世絵風景画でその名を馳せた歌川広重（1797-1858）。広重の手がけた名所絵や道中絵といった風景画は、単にその土地の風景を描いたものではなく、人々の暮らし、移りゆく四季折々の自然や風物を詩情豊かに謳いあげています。そこには自然の風景、橋や茶屋などの建造物だけでなく、大名行列や行商・旅人といった、人々の営みも描かれており、日本各地をめぐる旅の楽しさが見る者に伝わります。



《東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景》1833年頃

広報
画像 ①

広重が“漂泊の詩人”とも評される所以です。

また印象派をはじめとする西洋の画家たちにも影響を与え、広重の作品が模写されることもありました。広重は言わば、世界を魅了した浮世絵師なのです。

本展では、名作《東海道五拾三次》（保永堂版）などの風景画はもちろん、花鳥画、戯画、さらには卓抜した描写力をうかがわせる肉筆画に至るまで、様々なジャンルを通して広重の浮世絵ワールドを紹介します。

展覧会実施概要

- ◆名 称 : 「歌川広重展 - 東海道五拾三次と雪月花 叙情の世界 - 」
- ◆会 期 : 2020年7月4日[土] ~ 8月30日[日]
- ◆開館時間 : 午前9時30分 ~ 午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ◆休館日 : 月曜日（8/10は開館）
- ◆入館料 : 一般¥1,000 / 高大生¥600 / 中学生以下は無料 ※ただし保護者の同伴が必要
 ※ 専門学校・専修学校は大学に準じる
 ※ 障害者手帳をお持ちの方（手帳をご提示ください）、付添者（1名のみ）無料

〔主 催〕 佐川美術館 【公益財団法人 SGH 文化スポーツ振興財団】

〔後 援〕 滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会、BBC びわ湖放送（予定）

〔監 修〕 中右 瑛（国際浮世絵学会常任理事）

〔企画協力〕 株式会社ステップ・イースト

〔協 力〕 SG ホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、内容の変更の場合がございます。公式ホームページやツイッターをご覧ください。

■ 歌川広重 (1797-1858)

江戸時代を代表する浮世絵風景画の名手。本姓は安藤。俗称は徳太郎。定火消・安藤家の子として八代洲河岸に生まれました。13歳の時に家督を継ぐものの、当時版本の挿絵を数多く手がけていた浮世絵師・歌川豊広(1774-1830)に入門。1832年に京都を旅し、その時のスケッチをもとに、2年後出世作となる《東海道五拾三次》を発表したことで、人気絵師の地位を確立しました。以来、江戸の名所のみならず、富士山や各地の風光明媚な景勝地を描き続けました。広重の描いたものは単なる風景画とは異なり、自然の美をたたえ、雪月花の風雅を愛で、叙情性を感じることができます。

1858年、当時流行していたコレラを患い、急死。享年62歳でした。

広報
画像 ②



《名所江戸百景 水道橋駿河台》1857年

■ 名作・東海道五拾三次のシリーズを展観

江戸の日本橋と京都の三条大橋を結ぶ東海道。江戸時代以降、伊勢詣など庶民の旅への関心が高まる中、各地の風景が様々な季節、天候、時間帯のなかに叙情的に描かれ、変化に富む構成で《東海道五拾三次》シリーズが人気を集めました。広重は、幕府が京都の朝廷に馬を献上する行列に随行して東海道を歩き、その経験や見聞に基づいて本シリーズ作を描いたといわれています。東海道筋の自然と旅の風物が叙情的に描かれ、庶民の旅への憧れをかきたてたことで、参勤交代の大名行列や、宿場町の賑わいといった当時の世相が読み取れる風景画として、いまなお高い評価を受けています。



広報
画像 ③

《東海道五拾三次之内 庄野 白雨》

1833年頃

■ 貴重な肉筆浮世絵も公開

浮世絵版画は、絵師によって下絵を、彫師が版木に彫って、摺師が摺って完成させる完全分業制になったことで、大量生産が可能となりました。しかし肉筆浮世絵は、絵師自ら筆を執り、精緻な色遣いや微妙な濃淡の使い分け、荒々しいかすれの表現が可能な一点ものの貴重な作品です。版画とは違う流麗な筆致は、絵師の息遣いすら感じさせ、彼らの意思が余すところなく反映されているのです。広重の肉筆画は、概して淡い色彩と軽やかな筆致が特徴として挙げられます。

■ 滋賀県ゆかりの「近江八景」をご紹介します

江戸時代には、庶民の間でも、各地域の景勝地が人気を集めるようになりました。近江八景は、中国の「瀟湘八景」になぞらえた琵琶湖の八つの景勝地で、広重はこのテーマで二十種類以上の近江八景シリーズを制作しており、雨や雪などの自然の気候変化によって移り変わるこの地の風景を描いています。現代では感じるこのできない、自然の風物豊かな滋賀の景勝地をご覧ください。



《官女図》1848-54年



広報
画像 ④

《近江八景之内 瀬田夕照》1834-35年

同時開催企画展

山下清の東海道五十三次

YAMASHITA KIYOSHI

当館では、「歌川広重展-東海道五拾三次と雪月花 叙情の世界-」とともに、「山下清の東海道五十三次」を開催いたします。「放浪の画家」として親しまれ、多くの人々に愛されてきた山下清(1922-1971)の放浪の旅は、18歳を迎えた頃から始まりました。旅先でみた風景は無意識のうちに自らの脳裏に焼き付けられ、旅から戻ると、記憶をもとに作品を手がけたといいます。

代名詞ともいえる貼絵作品が次第に国内で高い評価を受けるようになった山下が、いつまでも世に残る大作にしたいという想いで描いた作品が《東海道五十三次》です。制作にあたり「ゆっくり旅ができるのならやってもいいな」と思い立った山下は、東京を皮切りに京都までの旅を約5年間続け、何度も訪れた東海道各地の思い出や感想を語りながら、作品を次々に仕上げました。本展では、山下の旅への想いが込められた遺作《東海道五十三次》の全場面をご紹介します、人情味あふれる彼の作品がもつ魅力に迫ります。



《瀬田の唐橋(大津)》制作年不詳 ©清美社

広報
画像 ⑤

展覧会実施概要

- ◆名 称 : 「山下清の東海道五十三次」
- ◆会 期 : 2020年7月4日[土] ~ 8月30日[日]
- ◆開館時間 : 午前9時30分 ~ 午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 : 月曜日(8/10は開館)
- ◆入館料 : 一般¥1,000 / 高大生¥600 / 中学生以下は無料 ※ただし保護者の同伴が必要
中学生以下は無料 ※ただし保護者の同伴が必要
※ 専門学校・専修学校は大学に準じる
※ 障害者手帳をお持ちの方(手帳をご提示ください)、付添者(1名のみ)無料

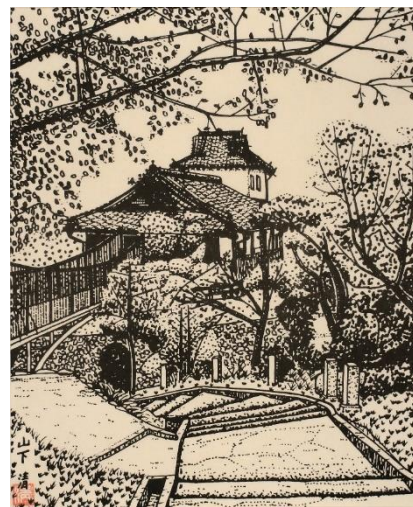
- [主 催] 佐川美術館【公益財団法人SGH文化スポーツ振興財団】
- [後 援] 滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会、BBCびわ湖放送(予定)
- [特別協力] 山下清作品管理事務局
- [企画協力] 株式会社ステップ・イースト
- [協 力] SGホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、内容の変更の場合がございます。公式ホームページやツイッターをご覧ください。

みどころ

■山下清の《東海道五十三次》全場面を公開

大正から、戦前・戦後、そして高度経済成長期と、激動の時代を駆け抜けた山下清。彼の緻密で色鮮やかな貼絵作品と、波乱万丈な生涯はテレビドラマでも紹介され、国民的な人気を博しました。晩年に自身の大作をつくりたいという思いから、東海道を旅します。42歳(1964年)から《東海道五十三次》の創作を始めて取材とスケッチの旅を続け、5年後の1969年に旅を終えました。本来は山下の代名詞ともいえる貼絵となる予定でしたが、愛知の熱田神宮の素描画を描き終えた時点で眼底出血をおこし、制作を中断せざるを得ない状況に陥り、その後脳出血により49歳で急逝します。誰もが未完だと思っていた《東海道五十三次》は、彼の他界後に三重の桑名から京都までの残り13枚がアトリエから発見されました。貼絵にこそならなかったものの、最後の大作となったのです。

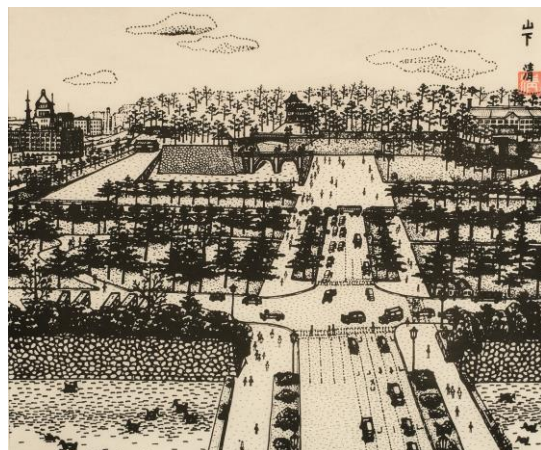


《小さな城(掛川)》制作年不詳

広報
画像 6

■現代と江戸時代の東海道五十三次

彼の画業で特筆すべきは、その驚異的な記憶能力でした。旅の間にはほとんど絵を描かず、旅先でみた風物を脳裏に鮮明に焼き付け、旅を終えた後、ほぼ自分の記憶によるイメージをもとに描きました。山下のフィルターを通して描かれた純粹で温かな風景は、どこか懐かしい気持ちを彷彿させる日本の原風景を思い起こさせます。本展では山下の遺作《東海道五十三次》全55点と、作品に添えられた素朴で飾り気のない山下のコメントを彼独特の世界観とともに楽しみください。



《皇居前広場(東京)》制作年不詳

※画像はいずれも©清美社

※出品作品は全て版画

音声ガイド (歌川広重展のみ)



歌川広重展の音声ガイドナビゲーターは咄家の春風亭昇々さん

春風亭昇太の一门である春風亭昇々さん。

江戸情緒豊かな広重の浮世絵ワールドをご案内していただきます。

わかりやすく、ユーモアあふれる作品解説をお楽しみください。

貸出料金：1台 ¥600 (税込)

ガイド制作：(株)カセットミュージアム

●広報用写真について

本プレスリリース中に掲載している画像データ(**広報画像と記載されているもの**)をご用意しております。画像データをご希望の方は、同封の**作品画像使用申込書(プレゼント用招待券申込付)**に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

当館ホームページ(<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>)から画像申請も受け付けております。

その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。トリミングなどの画像の加工はご遠慮ください。また、申込書に記載しておりますキャプションの表記もお願い致します。

●プレゼント用招待券について

読者・視聴者・リスナーへのプレゼント目的にかぎり、本展覧会会期中有効の**ご招待券を 10 枚**までご提供させていただきます。

ご希望の方は同封の**作品画像使用申込書(プレゼント用招待券申込付)**に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

◆交通のご案内:

お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神高速瀬田西 IC から湖周道路経由 (約 30 分)
- 名神高速栗東 IC から守山栗東線経由 (約 30 分)
- 名神京都東 IC から湖西道路 (真野 IC)・琵琶湖大橋経由 (約 30 分)

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線守山駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 35 分)
- JR 湖西線堅田駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 15 分)

◆連絡先◆

佐川美術館 (公益財団法人 SGH 文化スポーツ振興財団)

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891

TEL:077-585-7800/FAX:077-585-7810

企画担当学芸員 : 藤井 康憲 (ふじい やすのり)

y_fujii010@sagawa-artmuseum.or.jp

作品画像使用申込書

歌川広重展 -東海道五拾三次と雪月花 叙情の世界-
山下清の東海道五十三次

佐川美術館 宛 FAX / 077-585-7810

申込日 2020 年 月 日

作品画像の露出・掲載等ご使用にあたっての注意	● 申請された方法、目的以外には使用しないでください ● 掲載誌・紙は資料として 1 部以上お送りくださいますよう、お願い致します ● その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください
使用作品 ※ご希望の作品にチェックを入れてください。	歌川広重展 -東海道五拾三次と雪月花 叙情の世界- ☐ 1. 《東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景》1833 年頃 ☐ 2. 《名所江戸百景 水道橋駿河台》1857 年 ☐ 3. 《東海道五拾三次之内 庄野 白雨》1833 年頃 ☐ 4. 《近江八景之内 瀬田夕照》1834-35 年 山下清の東海道五十三次 ☐ 5. 《瀬田の唐橋(大津)》制作年不詳 ©清美社 ☐ 6. 《小さな城(掛川)》制作年不詳 ©清美社 ※作品画像使用の際は、上記キャプション及びコピーライトの表記をお願いします。 校正原稿を企画担当者まで必ずお送りください。確認に期日を要するため、お早めをお願い致します。 計 枚
媒体名	
貴社名	
ご芳名(ご所属)	()
ご連絡先	ご住所:(〒 -) メールアドレス TEL: FAX:
発行(掲出)予定日	年 月 日 号
使用形態(○印)	Web サイト / 印刷物(カラー / モノクロ)
招待券希望枚数	読者プレゼント用として、招待券 枚 ※ 枚数は 10 枚以内でお願いいたします。ご了承ください。